【原著】

# インターネット出願の現状と課題

## ――広島大学の事例を中心に――

杉原敏彦，高地秀明，永田純一，下山晋司，石田達也（広島大学）

広島大学では，「志願者の利便性の向上」と「大学のグローバル化と市場化への対応」をねらいとして，2015 年度入学者選抜からインターネット出願を導入した。国立大学に先行事例が乏しく，当初の想定とは異なる対応を要する事態も出来したが，一般入試におけるインターネット出願利用率は 20%に達し，無事完了した。今後は，出願書類等のデータを登録・保存して大学に提出させたり，それを入学後の指導等に活用したりできる機能の装備も考えている。本論では，本学の事例を基に，主として国立大学におけるインターネット出願の現状と今後の課題・展望を述べる。

### 1 はじめに

大学におけるインターネット利用の一場面として，入学者選抜の出願システムにインターネットを利用することは，出願者の個人情報の管理や不正アクセス対策等様々な課題はあるものの，入学者選抜運営上自然な流れである。

目を世界に転ずると，すでにインターネット出願が標準のシステムとなっている。欧米やアジア各国のインターネット出願については，土屋・村上（2013）が，その導入状況に触れつつ，入学者選抜における ICT 基盤サービスの基本設計とコンセプトモデルを論じている。また，林（2008）は，東アジアのインターネット出願先進国である韓国の導入状況をまとめている。

一方，我が国においては，私立大学でいち早くインターネット出願が導入・活用され，一部ではインターネット出願に限定して入学検定料を割り引くという戦略とも相俟って，志願者の増加に繋げている例もある。[1] しかし，費用対効果等の理由で，国立大学はインターネット出願に踏み切ることができない状態が続いていた。こうした中，杉原（2013）は，国立大学でインターネット出願を導入する意義を述べている。

広島大学では，2014 年に至って，一般入試，AO 入試及び推薦入試等ほとんどすべての学士課程入試についてインターネット出願を導入した。これは，国立大学として初めての取組である。また，大学院課程も視野に入れ，日本語版と併せて英語版の出願サイトをリリースし，同じく 2015 年度入学者選抜から一部の大学院研究科等でインターネット出願を実施した。

本論では，広島大学の学士課程及び大学院課程におけるインターネット出願について，どのようなねらいを持ち，どのようなプロセスを経て導入を図ったか，その稼働状況，実施した成果と課題等について，国立大学等における利用形態の今後の展望も交えて論じる。

### 2 導入までのプロセス

#### 2.1 背景

本学の場合，最初からインターネットによる出願システムに注目し，そのまま導入を決定したわけではない。当初の課題意識は，大学院課程の入学者選抜及び研究生の受入れ時における外国人志願者の入学検定料収納手続の改革にあった。入学検定料の確実な入金を実現するために，収納代行システムを構築・活用したいと考えたものである。しかしなが

ら，検討を開始してしばらくした時点（2011 年 2 月頃）で，費用対効果等の面で，このシステムの導入についての検討はそれ以上進まなくなった。

その後，2013 年に至って，学士課程入試全体をインターネット出願で処理するシステムの導入について，情報収集と導入の検討を集中的に進めることになった。これは，大学のグローバル化への対応にはインターネット出願システムの構築が極めて重要であるとの認識に基づくものであるが，検討が飛躍的に進んだのは学長のリーダーシップによるところが大きい。

検討初期の段階と比べて変更した点は，単に入学検定料の収納だけではなく，それを含む出願全体のインターネット活用を構想したことと大学院課程に絞っていたものを学士課程も含むようにしたことである。

このような経緯で，コストのおおよそのボリュームについて予測がつき，さらに，大学経営面で大学院における外国人留学生の増加方針が打ち出されたことが追い風となって，2013 年 12 月，インターネット出願導入の方針を決定した。

### 2.2 ニーズ調査

2013 年 12 月～2014 年 1 月，西日本の高校 60 校を対象に，インターネット出願に関する事前ニーズ調査を行った。調査する高校は，中国・四国，九州全県と近畿の 3 府県（京都，大阪，兵庫）合計 19 府県で，各府県の広島大学志願者数上位 3 校（広島県については 6 校）に絞った。調査内容は，インターネット出願に関して，①高校から見た利点，②実施に当たって高校が大学に配慮してもらいたいこと，あるいは懸念されることについてであり，回答は自由記述とした（回収率は，63.0%）。

肯定的意見としては，一部の私立大学ですでに実施されているので，高校の進路指導に特に影響はない，募集要項を取り寄せる手間がなくなり，センター試験後の急な出願校変更に対応しやすい，書き損じ等を気にする必要がなく，指導する手間が省略できるなどの意見が多く寄せられた。

また，否定的意見として，募集要項が紙で配布されるのではなくネット上に掲載されることになるので記述の不備が増加する，受験生と保護者，受験生と担任との間で情報・意識の共有がうまく行かないおそれが生じるなどの懸念が示されたが，これらの意見は事前にも予想できたことである。一方，一生を左右する出願という重大な行為を簡単にできるのが果たしてよいことなのか，簡単便利になることにより大学教育の商品化が加速するのではないかとの懸念が予想以上に多く提出された。

こうして事前調査で見出された受験する側の懸念・不安については，受験生，保護者及び高校教員対象の各種会合で詳細な説明を実施するとともに県教育委員会，高校校長協会及び PTA 連合会を訪ねて説明を重ねるなどの丁寧な対応を心がけることにした。

### 2.3 システム仕様及び業者選定

本学は大規模な総合大学であって，学士課程入試は一般入試だけでなく AO 入試，推薦入試及び編入学試験と広く実施されている。さらに大学院課程の入試が多種・広範に実施されている[2)]ことから，システムの構造は多岐にわたり複雑化した。

そもそも，インターネット出願を成功させる上で，パートナーとなる業者の選定は極めて重要な要素である。上記のような広範で複雑な入試の構造を理解し，システムに組み入れることのできる業者は限られることが予想された。そのようなこともあって，今回の業者選定のやり方は，公募型企画競争とした。

業者選定及び業務の開始スケジュールに関しては，表 1 のとおり応募書類の提出期限を

表１　業者選定等のスケジュール

| 内　容 | 日　程 |
|---|---|
| 公募開始 | 3 月 20 日 |
| 公募競争説明会 | 3 月 25 日 |
| 公募書類提出締切 | 4 月 17 日 |
| 企画提案書等提出締切 | 4 月 17 日 |
| 一次（書類）審査 | 4 月 21・22 日 |
| 一次選考結果通知 | 4 月 23 日 |
| 二次審査 | 4 月 25・28 日 |
| 最終選考結果通知 | 4 月 30 日 |
| 業務開始予定日 | 5 月 7 日 |

2014 年 4 月中旬とし，その後，書類による一次審査，プレゼンテーションによる二次審査を経て 4 月末には業者を決定した。インターネット出願システムを稼働させる最初のタイミングである AO 入試出願受付は 9 月であり，業者決定から 5 か月しか残されていない状況であった。

以下に今回の仕様書のポイントを挙げる。

（１）業務期間は 2014～16 年の 3 年間（ 3 年目には，紙媒体の募集要項（入学願書）は印刷・配布しない（以下，「完全インターネット出願」）予定[3)]）

（２）委託契約額の上限は，初年度：450 万円，次年度以降は各年度 270 万円

（３）学士課程（一般，AO，推薦，私費外国人，欠員補充第 2 次募集及び編入学），大学院研究科，研究生及び外国人研究生に関する出願システムを構築

（４）Web サイトは日本語・英語の 2 言語対応とすること

（５）入学検定料収納代行決済業務については，コンビニエンスストア，ペイジー，クレジットカードに対応

（６）スマートフォン等への対応（これにより，プリンターを使用しないで出願が完了できること）

（７）本学入試システム等との文字コードの対応（SHIFT-JIS 等）

（８）2014 年度入試において，インターネット出願受付処理人数が 2,200 人以上の実績を有すること

## 2.4 業者決定及びシステム構築

### 2.4.1 業者決定

こうして仕様を明示して業者からの応募を待ったところ，複数の業者から応募があった。そこで，提出された企画提案書及びプレゼンテーションの内容を基に，パートナー1 社を決定した。選定に当たって特に重視したのは，以下の点である。

（１）経費が予算の範囲内であること

（２）外国人留学生の利用を想定し，本学の要望どおりの英語サイトを用意できること

（３）多種多様な入試に対応できるよう，（単にパッケージとして提供するのではなく）システムをフレキシブルにカスタマイズできること

（４）インターネット出願への完全移行を見据えたものであること（プリンター不使用等）

詰まるところ，予め完成しているパッケージ品を単に購入するのではないということである。

### 2.4.2 システム構築

当初予定したシステム仕様は，前節に示したとおりであるが，実際に稼働するとなると，変更を余儀なくされた点も多くある。一方，事前には想定しなかった業者からの機能向上の提案も見られた。それらの具体例を以下に示す。

（１）英語サイトの設計

英語サイトは，日本語に英語表記を加えた日英併記を想定したが，決定業者から，英語表記のみのサイトの設計が提案された。

（２）文字コード

合否判定等のシステムと文字コードを揃える必要があることから，志願者の入力文字に制限を課さざるを得ないと考えたが，結果的にはその必要なく運用で対応した。

（3）顔写真のアップロード

顔写真のアップロード機能について，実装は困難と見込んだが，実施システムには装備された。

（4）文字規制の廃止

全角・半角文字等の指定や郵便番号の 7 桁入力等の規制を廃止し，外国人留学生に対応できるようにした。

（5）宛名ラベルの自動作成

バーコードの付された宛名ラベルが自動作成されることにより，出願受付事務が効率化した。

### 2.5 広報・周知活動

本学でインターネット出願導入に当たって構想した将来計画は，学士課程第 1 年次入試については，3 年目で紙媒体の出願方式を全廃し，インターネット出願に完全移行するというものであった。そのため，導入初年度に 30%，2 年目に 50%のインターネット利用率を目指した。

しかし，先行する私立大学の場合，インターネット出願導入 1 年目の利用率は，多くの大学で全志願者の 5～10%程度とのことであった（紙媒体出願との併用の場合）[4]。

このギャップを埋めるためには，受験生，保護者及び高校（教員）への効果的な広報・周知活動が不可欠であった。このため，次のような広報活動を集中的に展開した。

・各種説明会でのアピール
・広報誌，募集要項への記載
・リーフレット，コマーシャル動画の作成
・教育委員会，高校校長協会，PTA 連合会を訪問しての説明
・集中的な高校訪問
・本学入学センター大阪，福岡両オフィスにおける広報活動
・マスコミへの話題提供

## 3 稼働状況

### 3.1 インターネット出願利用状況

インターネット出願導入に当たって本学の取った方針は，①学士課程第 1 年次入試（一般入試，AO 入試及び推薦入試）については，すべての学部，募集単位で例外なく一斉に実施する，②第 3 年次編入学試験及び大学院課程入試については，各部局の裁量に委ねる，というものである。その結果，初年度第 3 年次編入学試験でインターネット出願を導入したのは 1 学部（試験実施全 8 学部中），大学院課程で導入したのは 1 研究科・1 プログラム（全 11 大学院研究科・1 プログラム中）であった。

導入初年度における学士課程第1年次入試のインターネット出願利用状況は，表 2 のとおりである。一般入試では，約 20%の利用率であった。

表 2　インターネット出願利用状況

| 入試方式 | 利用率（%） | 利用者数 | 志願者数 |
|---|---|---|---|
| 一般（前期日程） | 21.8 | 1,007 | 4,623 |
| 一般（後期日程） | 17.4 | 454 | 2,612 |
| 推薦 | 7.2 | 5 | 69 |
| AO（総合評価） | 10.4 | 80 | 768 |
| AO（帰国生対象） | 62.5 | 5 | 8 |
| AO（社会人対象） | 39.1 | 9 | 23 |
| 私費留学生 | 73.7 | 14 | 19 |
| AO（ﾌｪﾆｯｸｽ方式） | 16.7 | 2 | 12 |
| 合　計 | 19.4 | 1,581 | 8,134 |

また，県別のインターネット出願利用状況は表 3 のとおりである。詳細な分析はこれからであるが，大都市圏で，インターネット出願利用の先行大学の所在する都府県の利用

表 3　インターネット出願の県別利用状況（一般入試【前期日程】志願者数 50 人以上の都府県対象）

| 都府県 | 利用率 (%) | 利用者数 | 志願者数 |
|---|---|---|---|
| 福岡 | 39.5 | 126 | 319 |
| 大阪 | 33.3 | 63 | 189 |
| 東京 | 30.3 | 23 | 76 |
| 滋賀 | 29.3 | 17 | 58 |
| 静岡 | 27.1 | 26 | 96 |
| 兵庫 | 26.1 | 80 | 307 |
| 山口 | 22.1 | 38 | 172 |
| 広島 | 21.9 | 282 | 1,288 |
| 佐賀 | 20.7 | 18 | 87 |
| 京都 | 20.0 | 17 | 85 |
| 香川 | 19.6 | 28 | 143 |
| 愛知 | 19.4 | 30 | 155 |
| 愛媛 | 18.0 | 27 | 150 |
| 奈良 | 17.9 | 10 | 56 |
| 和歌山 | 17.5 | 10 | 57 |
| 島根 | 17.4 | 21 | 121 |
| 三重 | 17.2 | 10 | 58 |
| 岡山 | 16.3 | 23 | 141 |
| 大分 | 14.2 | 15 | 106 |
| 熊本 | 12.8 | 12 | 94 |
| 宮崎 | 12.3 | 9 | 73 |
| 徳島 | 10.9 | 7 | 64 |
| 鳥取 | 10.5 | 9 | 86 |
| 鹿児島 | 8.8 | 10 | 113 |
| 長崎 | 8.8 | 11 | 125 |

率が高いように見える。

なお，今回のシステムに顔写真アップロード機能を装備したことは先述したとおりであるが，顔写真アップロード利用率は学士課程第１年次入試全体を通じてインターネット出願利用者の 23.5%であった。

## 4. 課題

インターネット出願システム導入 1 年目の入試がすべて終了した時点で，いくつかの課題が見えた。

### 4.1 人的負担（出願受付業務等）

出願方式として紙媒体とインターネット出願との併用の期間を設けた（2 年間）ため，この期間の出願受付業務は二重性を帯びることになった。それだけ業務に係る人的負担が過重となったが，インターネット出願に係る出願受付は導入の経緯から入学センター，紙媒体に係る出願受付は各学部というように業務を分担した。

インターネット出願に完全移行後は，出願受付業務の二重性は解消されるものの，高等学校の発行する調査書及び大学入試センター試験成績請求票について，依然紙媒体による送付方式が残ることは大きな課題である。

### 4.2 システムの複雑化

本学のように総合大学であり大学院重点化大学である場合（11 学部，11 大学院研究科・１プログラム），実施する入試が多種多様で複雑な階層と構造を持つことになる。このためシステムの構築自体にも相当の時間と労力を要したが，システムの管理運営にも予想以上に神経・労力を使うことになった。

### 4.3 海外からの入学検定料支払方法

本学の現システムでは，海外からの入学検定料支払い方法はクレジット決済に限定している。海外からの入学検定料の安定した入金確保を目指してこのように限定したのであるが，クレジットカードの非保有者にどのように対応するか，課題が残った。

### 4.4 インターネット出願完全移行の困難性

インターネット出願への完全移行は既定方針であるが，その場合に留意すべきはネット環境のない志願者への対応である。在籍高校でのインターネット出願の利用を促進する，

PC を必要とせずスマートフォンのみでの出願が可能なシステム設計とするなどの対策が考えられるが，次節で述べるアップロード機能等との関連も念頭に置いて検討を進めることが重要と考える。

| フロー | 第１ステージ<br>2014 年度 | 第２ステージ<br>2015 年度 | 第３ステージ<br>2017 年度以降 | 第４ステージ<br>2017 年度以降 |
|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | 志願情報入力<br>検定料収納 | 志願情報入力<br>書類アップロード<br>検定料収納 | 志願情報入力<br>書類アップロード<br>宿舎申請<br>（書類アップロード）<br>検定料収納 | 志願情報入力<br>書類アップロード<br>宿舎申請<br>（書類アップロード）<br>検定料収納 |
| Ⅱ | 出願受付 | 出願受付<br>受験番号登録<br>閲覧・評価<br>（一部の研究科入試から実施）<br>合格者登録<br>（一部の研究科入試から実施）<br>合格発表<br>（一部の研究科入試から実施） | 出願受付<br>受験番号登録<br>閲覧・評価<br>（その他の研究科入試等も実施）<br>合格者登録<br>（その他の研究科入試等も実施）<br>合格発表<br>（その他の研究科入試等も実施） | 出願受付<br>受験番号登録<br>閲覧・評価<br>（学部入試等も実施？）<br>合格者登録<br>（学部入試等も実施？）<br>合格発表<br>（学部入試等も実施？） |
| Ⅲ | | | 在留資格申請<br>（書類アップロード）<br>入学手続<br>（個人情報入力項目追加） | 在留資格申請<br>（書類アップロード）<br>入学手続<br>（個人情報入力項目追加） |
| Ⅳ | | | | 教務システム連動 |

図１　広島大学におけるインターネット出願の将来構想

## 5. 展望

導入初年度である 2014 年度の段階は，図 1 の第 1 ステージ（「出願受付機能及び入学検定料収納代行機能の導入」）に該当するが，翌 2015 年度には第 2 ステージ（「書類アップロード機能[5]，ポートフォリオ機能[6]，受験番号登録機能及び合格発表機能」を備える。）に移行しようと考えている。

さらには，時期は完全移行後のことになるが，宿舎申請機能，在留資格申請機能（外国人留学生のみ）及び入学手続機能の導入により，出願から入学までをシームレスに行うことのできるシステム（第 3 ステージ；2017 年度以降）を構築したいと考えている。そして，その後については，学籍等を管理する教務システムとの連動を図ることにより，単に入学者選抜だけでなく出願から卒業までのポートフォリオ評価の実現を展望しているところである（第 4 ステージ）。

## 注

1）2015 年度入試では，一般入試を実施する私立大学 580 大学中，153 大学（約 26%）でインターネット出願を実施している。（旺文社『蛍雪時代』84（17），108．）

2）合わせて 11 研究科・1 プログラムからなる本学大学院課程の入試の種類は，全部で 524 件に上る。

3）完全インターネット出願の対象となる入試は，学士課程第 1 年次入試のみである。

4）リクルート『カレッジマネージメント』**180**，40.

5）ここでいう書類アップロード機能とは，インターネット出願システム上に，出願書類等のデータを登録・保存し，出願先大学に提出できる機能である。

6）ここでいうポートフォリオ機能とは，出願先大学が受け取った出願書類等を出願者個人単位で蓄積・管理し，大学関係者が閲覧・評価・指導することのできる機能である。

## 参考文献

林　篤裕（2008）．「海外トピックス 韓国・台湾の入試事情」『Forum』**31**, 46-52.

杉原敏彦（2013）「インターネット出願と国立大学」『広島大学入学センター年報（かけはし）』**12**，2.

土屋　俊・村上祐子（2013）．「入学者選抜における ICT サービス基盤」『大学入試研究ジャーナル』**23**, 121-126.